

11:13 そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分の務めを重んじています。

11:14 そして、それによって何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。

11:15 もし彼らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられることは、死者の中から生き返ることではなくて何でしょう。

11:16 初物が聖ければ、粉の全部が聖いのです。根が聖ければ、枝も聖いのです。

11:17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、

11:18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。

11:19 枝が折られたのは、私がつぎ合わされたためだ、とあなたは言うでしょう。

11:20 そのとおりです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高ぶらないで、かえって恐れなさい。

11:21 もし神が台木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。

11:22 見てごらんください。神のいつくしみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。

11:23 彼らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼らを再びつぎ合わせることもできるのです。

11:24 もしあなたが、野生種であるオリーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につがれたのであれば、これらの栽培種のもものは、もっとたやすく自分の台木につがれるはずです。

パウロは「何とか私の同国人にねたみを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っている」というほど、イスラエルを愛しています。その愛を持ってとりなし祈り、思索するとき彼に与えられたイメージは、オリーブの枝です。

根にあたるのはイスラエルで、彼らの不信仰によって折られてしまい、その後には異邦人がつがれたのですが、異邦人は「高ぶらないで、かえって恐れ」なくてはならないというのです。なぜなら「いつくしみの中にとどまっていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされる」からです。それはイスラエルとも同じです。

しかし「神は、彼らを再びつぎ合わせることもできるのです。」から、神のいつくしみときびしさの両方に目を留めていきましょう。

同じように私たちも自分の救いで高ぶることなく、常にいつくしみの中に留まりつつ、安心して感謝して、主に喜んで従っていきましょう。イスラエルに対しても、まだまだ救われていない人々に対しても、パウロのような愛を持って祈り考えて、「何とか…救おうと願って」行動していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

